

● 報恩講とは

「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第3代覚如上人が、聖人の33回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。

先年ご往生された梯實圓勧学はご法話の中で、「ご開山（親鸞聖人）さま、ありがとうございます。あなたのおかげで私もあなたと同じお念仏いただいて、同じ信心をいただいて、同じお浄土で今度は出遇わせていただきます、とお礼を申しあげる法要が報恩講だよ」とおっしゃられています（『伝道』2015 No84・星野親行師の寄稿より）。

一般寺院や本山、別院など全国の浄土真宗のお寺でお勤めされる報恩講に皆さまも是非ともお参りし、またご家庭でも報恩講をお勤めいたしましょう。

● 寺院の「報恩講」

全国の各寺院では一年に一度お勤めされます。本山の報恩講と同じ期日にお勤めする寺院では「御正忌」、本山の報恩講に先立ち9月から1月頃にかけてお勤めする寺院では、「お引き上げ」や「お取り越し」と呼ぶことが多いようです。また、地域によっては、「ほんこさん」と呼んで親しまれています。

● 本山本願寺、別院などの「報恩講」

本山本願寺においては、親鸞聖人の祥月命日にお勤めすることから「御正忌報恩講」といい、毎年1月9日から16日までお勤めします。

また、東京の築地本願寺のほか、各地におけるお念仏の中心道場として別院、教堂が全国にあります。多くは、本山の御正忌報恩講に先立ち、9月から1月上旬頃にかけて「報恩講」をお勤めします。



ありがとうの集い

ある人の詩に、

ありがとうは しいあわせの あいさつです
(くりす あきら『ありがとうのてがみ』)

という言葉がありました。

「ありがとう」と言われたら、幸せな気持ちになりますし、「ありがとう」と言うことができるのは、幸せの証しでもあるでしょう。

私たちの欲望には限りがありません。

そうすると、「あれが欲しい」、「これが足りない」と、不平・不満の毎日になります。お念仏を喜ぶ者も、煩悩や欲望がなくなるわけではありませんが、不平・不満の毎日が、「ありがたい」、「もったいない」という身に変えられます。

これは、念仏者は、ご恩のわかる人に育てられたからです。

ご恩のわかる身に育てられたのは、阿彌陀さまの智慧と慈悲が、私を照らして下さったからであり、親鸞さまが、その教えを私に伝えてくださったからです。

そのことを感謝し、ご恩に報いようとする営みが、報恩講。

報恩講は、「ありがとうの集い」です。



中央仏教学院

通信教育同窓会関東支部
東京地区通信教育生の会

共催

平成二十八年 宗祖親鸞聖人報恩講法要のご案内

慈光のもと、皆様方におかれましては益々のご健勝のこととお慶び上げます。
宗祖親鸞聖人報恩講法要を左記のとおり、同窓会関東支部と東京地区つどいの会
共催で修行いたします。

記

日時 十二月十八日(日) 午後一時〜

会場 築地本願寺 講堂

懇志 二千元(懇親会を含む) 当日受付にてお納め下さい

(報恩講懇志としてなので、懇親会不参加の場合も金額は同じです)

次第

午後〇時半

受付開始(昼食は各自で。法要開始五分前から法要説明あり)

午後一時

法要・宗祖讃仰作法 音楽法要 及び 御俗姓御文章拝読

午後一時四十分

法話・感話

午後二時三十分

記念講演 築地本願寺宗務長 安永 雄玄 師

講題「未定」

午後四時

仏教讃歌 混声合唱団「衆会」

午後五時

懇親会

午後六時三十分

閉会

注意事項

○宗祖讃仰作法(音楽法要) 経本をご持参下さい。

「茶色の表紙のもの」もしくは「赤表紙・宗祖讃仰作法―参拝用―」

なお、十一時から習札を予定、参加は自由です。

○同封の出欠回答ハガキを十二月十五日までにご投函下さい。

以上

平成二十八年十一月二〇日

お問い合わせ ○同窓会は総務・廣松 敬士

○つどいの会は中島 定美

法要責任者(行事担当) 安藤秀明